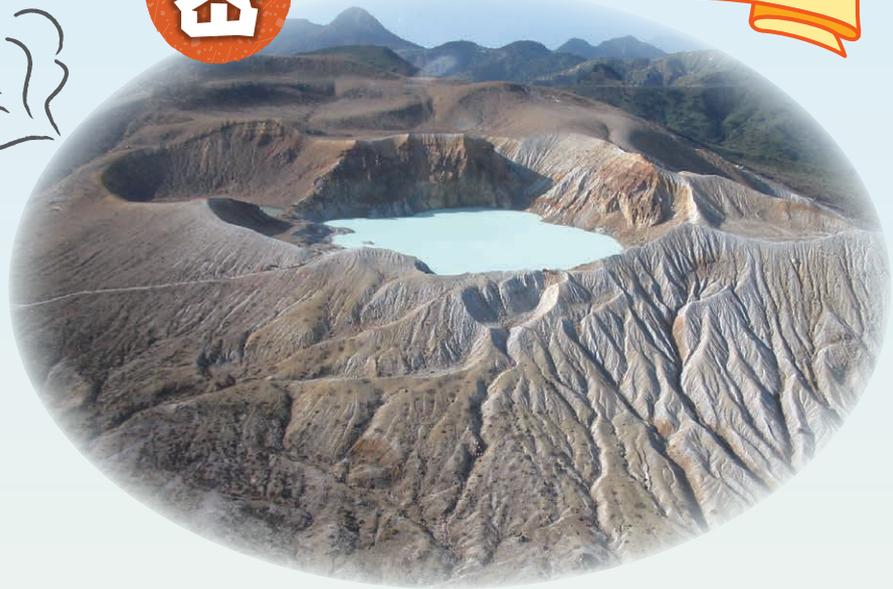


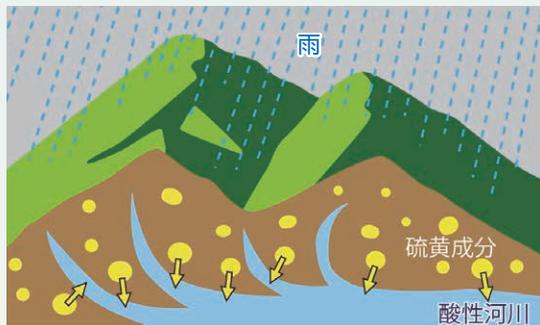
草津温泉の秘密

くらしを守る中和事業



活火山の「草津白根山」

活火山の草津白根山は硫黄の山です。草木がほとんどない荒れた山頂部にはエメラルドグリーン(火口湖)があります。そこにしみ込んだ雨水は、強い酸性の水として湧き出て川や温泉となります。



草津白根山からの恵み「草津温泉」

日本有数の酸性泉である草津温泉は、自然湧出量は日本一を誇り毎分32,300リットル以上、1日にドラム缶約23万本もの温泉が湧き出しています。

pH2.0の強酸性温泉は殺菌作用が特徴で多くの効能があり、古くからたくさんの人々の心と体を癒し続けてきました。

湯畑



草津温泉のシンボル「湯畑」



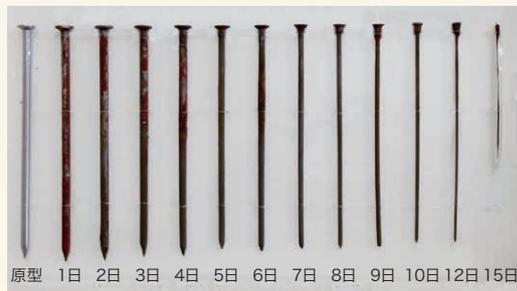
pH2.0

湯川

草津温泉が流れる「湯川」
水温は冬でも30℃くらいある

草津周辺の川は「死の川」

温泉として効能がある酸性の水も、暮らしには悪影響があります。草津白根山やその周辺に水源を持つ河川は、昔から地域の人々に強い酸性の川として恐れられていました。さらに、周辺には火薬などの原料として硫黄を採掘する鉱山があり、自然の酸性河川に加え鉱山跡からの酸性の廃水が川に流れ込みました。そのため、それら中小河川が集まる吾妻川の水は暮らしに使用できないうえ、生きものも棲めない「死の川」と呼ばれるようになりました。



酸性の湯川の水につけたクギの状態



コンクリート 原型 3日後 1週間後 2週間後 1カ月後



酸性の湯川の水につけた
コンクリートの状態

死の川をよみがえらせた「中和事業」

吾妻川に流れ込む強い酸性河川の水質改善を目的として、中和事業は世界初の事業として1964年から始まりました。湯川、大沢川、谷沢川へ石灰石粉を投入し、中和された水は白砂川を通過して吾妻川へと流れ込みます。

草津中和工場



世界初!!



石灰石を採掘



中和工場の大型サイロに貯蔵



川から汲み上げた酸性の水に石灰石粉を混ぜる



石灰石粉を混ぜた水を川に戻して中和させる

中和生成物を貯めるための「品木ダム」

中和工場から湯川、大沢川、谷沢川に投入される石灰石粉によって中和生成物が生成されます。それを貯めておくために建設されたのが品木ダムです。品木ダムは旧六合村品木地区の住民の方の協力のもと1965年に完成しました。



旧六合村品木地区の様子



中和によって吾妻川は清流となり、魚たちが棲むようになりました。

酸性の水による被害で長い間苦しんできたことは、遠い昔のようです。

この豊かな環境を守るため、品木ダム水質管理所は24時間、365日休むことなく

中和事業を続けていきます。

